

## 天声人語

今夜、天の川に力ササギの橋がかかる。旧暦7月7日、七夕である。国立天文台が、梅雨なかなかの新暦ではなく、旧暦で祝おうと呼びかけている日だ。力ササギは夜空に翼を連ね、遠く離れた織姫と彦星の間を取り持つ▼力ササギを県鳥とする佐賀県の保護施設で対面した。間近で見ると、目が丸く愛らしい。羽色は白黒の2色で、長い尾羽は太陽光を浴びて青や緑に輝く。佐賀を含む九州北部に生息するという▼「力チカチ」と聞こえる鳴き方が『勝ち』に通じる。縁起がいい鳥として知られています」と県文化財課の森宏章さん(45)。地元では力チガラスとも呼ぶ。佐賀市内には「かささぎ通り」があり、駅名板にも両翼を広げた姿が描かれる。地元のサッカーJ1「サガン鳥栖」の旗にも登場するほどだ▼県は20年前から保護活動に取り組んできた。春先、幼鳥が巣から落ち、けがをしていると市民から通報が来る。森さんは「傷ついた幼鳥を治療し、自然界に戻す。自力で飛ぶ姿を見ると、親鳥のようにうれしくなります」▼七夕を祝う風習は宮中から庶民へ広がった。江戸時代の子どもたちは七夕の時期、たらいの中で織姫と彦星を引き合わせた。水面に映した二つの星をそよ風で近づけ、逢瀬を演出したという。天空の遠距離恋愛を実らせたいという優しさは時代を超えて息づく▼今年の新暦7月7日は西日本を豪雨が襲い、甚大な被害をもたらした。旧暦の七夕こそは、夕涼みでもしながら心穏やかに、天の川を見上げたい。

2018・8・17